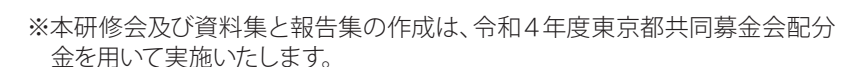


また、地域福祉施設が地域のつなぎ目となり、地域の拠点としての働きを実現できるよう、職員一人ひとりがセツルメントの精神を肌で実感できる機会をつくり、法人や団体の枠を超えて人財の育成に取り組み、加えて地域のキーパーソンとなる人財との連携や将来にむけた関係づくりを進めます。

Map of the area around Nishi-Shinjuku Station, showing the JR Nishi-Shinjuku Station, the JR Nishi-Shinjuku Station, the JR Nishi-Shinjuku Station, and the JR Nishi-Shinjuku Station.

- 都営地下鉄大江戸線「両国駅」A1出入口より徒歩0分。
- JR中央・総武線「両国駅」東口より徒歩約6分。
- JR中央・総武線「両国駅」西口より徒歩約7分。

9:00～ 9:15 メッセージ 阿部志郎氏 日本地域福祉施設協議会名誉会長
9:20～11:30 パネルディスカッション「地域福祉の未来にむけて」
～日本地域福祉施設協議会会員施設 現場職員の実感から～
11:30～12:00 まとめ 岸川洋治氏 日本地域福祉施設協議会会長
12:00～12:15 閉会のことば 野原健治氏 東京都東地区地域福祉施設協議会副会長



基調講演



山口 稔氏

関東学院大学社会学部教授／
墨田区地域福祉計画推進協議会委員

関東学院大学教授（神奈川県生まれ。1977年
明治学院大学大学院社会学研究科社会福祉
学専攻修士課程修了。2001年「社会福祉協議
会理論の形成と発展」で東洋大学博士（社会
福祉学）。関東学院大学文学部教授。

Ⅰ 第 1 分科会

セツルメントと地域におけるアート活動
～アートが繋ぐ人と人～

司会進行：星亜沙子氏（横須賀基督教社会館）
講 演：柴田謙治氏（金城学院大学）
話題提供：青木 彬氏（一般社団法人藝と／ファンタジア・ファンタジア）

福祉、アートの両方の視点からセツルメントにアプローチします。柴田
謙治氏からセツルメントとアートについてのレクチャーを、青木彬氏か
らはグループワークにつながる話題提供をしてもらいます。ここでは日
常にあるアートの再発見を通じてセツルメントを身近に感じつつ、一人
ひとりの人がその人らしく輝くことや、複数の人が関わるプロセスから
生まれる創造性にも着目し、参加者同士の出会いと自由な語りの場づ
くりをめざします。

メッセージ



阿部志郎氏

日本地域福祉施設協議会名誉会長

東京都生まれ。東京商科大学（現一橋大学）卒
業。米国ユニオン神学大学院留学。明治学院大学
助教授を経て、1957年より横須賀基督教社会館
館長に就任。2007年より会長。日本ソーシャル
ワーカー協会会長、日本社会福祉学会会長、国際
社会福祉協議会副会長、東京女子大学理事長な
どを歴任。2003年神奈川県立保健福祉大学初代
学長に就任、2007年より名誉学長。

分科会

Ⅱ 第 2 分科会

地域における食支援～食支援のその先～

司会進行：伊丹 桂氏（母子生活支援施設ベタニヤホーム）
発 題：①山内恵美氏（母子生活支援施設ベタニヤホーム）
②蔵野知子氏（立花児童館）
③大石 文氏・宮川玲実氏（墨田児童会館）

近年、全国的な広がりを見せている食支援は食事や食材の提供にと
どまらず、食を通じた居場所づくりなどの展開をみせ始めました。行政、
民間、企業、NPO、社会福祉法人といったそれぞれの事業主体の特
長を生かして制度の枠組みを超えた連携は、地域の拠点となる子ど
も食堂や地域食堂、あるいは食品配布を行うパントリーという形で地
域の孤立対策としてのつながりづくりなどの働きを担うようになってい
ます。本分科会では、おもに墨田区の食支援とその食を通じた連携
事例を取り上げ、地域における食支援の可能性とその先を展望します。

Ⅲ 第 3 分科会

子育て～地域活動と地域拠点との連携～

司会進行：村上聡氏（墨田区社会福祉協議会）
鈴木友和氏（東向島児童館）
発 題：①木村美恵子氏（元青少年委員）
②高橋朋宏氏（母子生活支援施設ベタニヤホーム）
③吉永道子氏（NPO法人子育てひろば かあかのおうち）

子どもの育ちを取り巻く地域に存在する様々な課題の中から、墨田区
の事例を取り上げます。子どもにとって育ちやすい、親にとって子育て
しやすい環境はどんな地域でしょうか。全体テーマの「地域福祉の未来」
につながる、将来住みたいまち、子育てしやすいまちについて、子ど
もの思いや考えをどう聴いて形にしていこうかという身近な課題にも向
き合います。青少年委員、母子生活支援施設、民間の子育てひろばの視
点から話題提供をしてもらい、活発な意見交換につなげます。

Ⅳ 第 4 分科会

知って、つながって、広がろう！
～未来を担う次世代からの発表～

司会進行：遠矢充宏氏（社会福祉法人賛育会）
サポーター：川島克之氏（社会福祉法人雲柱社）
発 表 者：日地協加盟施設から5グループ（原則入職5年以内）

地域福祉の未来を担う次世代からの発表です。日々の実践における
成功経験を発表し合い、サポーターの助力を得て深掘りします。セツ
ルメントという言葉に馴染みがない世代の発表を切り口に、未来に向
けた新しい地域福祉や現代版セツルメントのヒントが見つかるかもし
れません。アフターコロナの世界が見えてきた今、将来にむけてこん
なことがしたいという夢や宣言も大募集です。

Ⅴ 第 5 分科会

地域における多様な障がいと多様な生き方

発 題：①内田治代氏（社会福祉法人興望館）
②関根富美子氏（五日市保育園）
③網野一也氏（社会福祉法人雲柱社）

障がいの有無にかかわらずあらゆる人がその人らしく生きられる地域・
社会をつくることが将来を担う子どもたちにとっても私たち一人ひとり
にとっても暮らしやすい豊かな社会であるはずです。一方でいま地域
福祉施設の現場では医療的ケアが必要な子どもや発達に特性があり
特別な配慮が必要な子どもの受け入れなど現実的な課題にも直面して
います。インクルーシブな社会をめざす理念と目の前の課題に取り組
む実践について考えます。

Ⅵ 第 6 分科会

地域福祉と災害～支援の現場から～

司会進行：大江 浩氏（社会福祉法人興望館）
発 題：①湯本志保氏、中嶋直美氏（賛育会豊野事業所）
②丸目陽子氏（熊本YMCA元益城町総合体育館副館長）
③大江 浩氏（社会福祉法人興望館）

災害（非日常）は日頃の地域福祉の現場（日常）と地続きです。過
去の災害の支援活動を振り返り、日頃の活動のあり方や今後起こりう
る災害への教訓を考えます。また、地域福祉の現場において対人・
対地域の支援を職務とする人と組織に焦点をあて、当事者として感じ
たことを分かち合います。そのうえで、日常・非日常を問わず地域福
祉の担い手である支援者のケアについても考えます。

パネルディスカッション

「地域福祉の未来にむけて」

～日本地域福祉施設協議会会員施設 現場職員の実感から～

本研修会の特徴である地域福祉施設職員の生の声を聴くことができる構成にします。大阪、
名古屋、東京から登壇者を迎え、全体テーマ「地域福祉の未来～ともにたがやす～」とい
う現在から未来へのベクトルを意識しつつ、いま現在の日々の働き、理念と実践の間での
苦労や課題について実感のこもった語りを展開します。

第 27 回全国地域福祉施設研修会

地域福祉の

未来にむけて
～ともにたがやす～